

平成25年度研究協議会資料 [研究課題番号：5(4)ESD]

都道府県・指定都市番号	63	都道府県・指定都市名	岡山市
ふりがな 学校名 (生徒数)	おかやましりつきょうやまちゅうがっこう 岡山立京山中学校 (851人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地： 〒700-0087 岡山県岡山市北区津島京町1-7-1

電話番号： 086-254-2797

研究内容等を掲載しているホームページのURL：岡山市立京山中学校ホームページ

<http://www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac/>

【研究成果のポイント】

- 研究のキーワード：総合的な学習の時間、W型問題解決モデル、探究活動、ESDカレンダー、社会貢献
- 研究成果のポイント：総合的な学習の時間の本校版学習指導要領解説の作成
教科の授業をESDの視点で拡張した単元学習プログラムの構築
「能力・態度」を踏まえたESDカレンダーの作成
地域との連携・提案・発信

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究主題

地域に誇りをもち、地球的視野で考え未来を創る生徒の育成
～グローバルな視点を活かした授業・活動で育む思いやり・夢・志 共育～

(2) 研究主題設定の理由

地球的視野で未来を考え、その課題に対して、当事者意識をもち、地域のために社会貢献できる生徒を育てるために、「グローバル」な視点を活かした授業・活動を通して、自然と人間の調和を多面的に考え、思いやり・夢・志を大切にしたい、共に育ちあう学校づくりを推進しようと考えている。

これまで取り組んできた「環境」「平和」「人権・国際理解」を軸に、ESDの視点で3年間の指導計画を見直し、具体的な課題の発見・探究・解決・提案の過程で、W型問題解決モデルを意識した探究活動を通して、生徒自らが持続可能な社会づくりへの価値観を身に付け、行動を変革していくことができるように取り組んでいく。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の研究視点の検討と共通理解 ・総合的な学習の時間の取組の精選、時系列に整理 ・6つの「構成概念」と7つの「能力・態度」の組み込み ・総合的な学習の時間と教科等を関連付けたESDカレンダーの作成 ・教科の授業をESDの視点で拡張した単元学習プログラムの構築 ・ESDの視点での教科授業・国教研調査官、大学教授を招いて研究協議 ・京山学区フィールドワーク教員研修 ・これらをまとめ、平成25年度研究協議会において中間発表
--------	--

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- ① ESDの視点でまとめた総合的な学習の時間の本校版学習指導要領解説の作成
これまで総合的な学習の時間で取り組んできた学習内容を3年間を見通して，ESDの視点で整理を行い，重視する6つの「構成概念」と7つの「能力・態度」でまとめた。総合的な学習の時間での学習内容と育みたい力を明確にした学習指導要領解説を作成することで，教員が異動しても持続可能な学習となった。
- ② 教科の授業をESDの視点で拡張した単元学習プログラムの構築
教科の授業や他教科との連携をESDの視点で拡張した学習プログラムを構築することで，教科の授業改善につながった。
- ③ 重視する「能力・態度」を踏まえたESDカレンダーの作成
総合的な学習の時間と教科等の関連をESDの視点で整理し，本学習で重視する「能力・態度」を踏まえたESDカレンダーを作成することで，指導方法や手だてが明確になった。
- ④ 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり
ESDの視点で整理をすすめる中で，各教科で思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりに取り組んだ。4つの視点（生徒の意欲を高める「たい」の泳ぐ発問，思考の流れのみえるワークシート・ノート，学習形態の工夫，ICT等の視覚化）と，3つのポイント（活用させる基礎・基本，活用したくなる学習課題・活動，違いを深める学び合い）を明示し，授業公開・研究協議や模擬授業等の取組を行うことで，教員の意識啓発につながり，授業改善の視点が明確になった。
- ⑤ 地域の特色を活かした地域連携
学校が地域をよく知ることから新たな学びが生まれると考え，地域の遺産や歴史等を学ぶために，地域の人材を講師として招へいし，小グループに分かれて地域フィールドワークを行い，互いに学んだことを報告し合い，参画型の校内研修の充実を図った。これによって，地域の特色を活かした活動では，地域の課題を踏まえた活動や，病院・公民館・愛育委員との連携を踏まえた活動に取り組み，学んだことを総合文化発表会（SKF）や京山公民館で地域に発信できた。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

- 3年間を見通した総合的な学習の時間の学習内容の精選と育みたい力の明確化
- W型問題解決モデルを意識した探究活動の充実
- 教科の授業をESDの視点で拡張した学習プログラムの構築
- 地域の特色を活かした地域連携

(2) 研究成果の意義等

- 総合的な学習の時間の学習内容の活動のつながりや，各教科と連携した単元学習プログラムの構築により，言語活動の充実を図ることができた。
- 総合的な学習の時間に，W型問題解決モデルを意識した探究活動の充実を図ることで，生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながった。
- ESDの視点で育みたい能力・態度を基に作成したESDカレンダーの試作により，3年間の見通しが明確になった。
- 教科指導をESDの視点で整理することで，互いの授業実践を出し合い，授業スキルを高めることができた。このことは授業改善だけでなく，教科を超えた学習連携や参画型の校内研修の充実につながった。
- 生徒の視野が広がり，社会貢献や地域ボランティアへの意欲が増した。

(3) 研究2年目へ向けての課題と改善

- 本年度，総合的な学習の時間と教科等との関連付けを行い，3年間を整理・見直し，重視する能力・態度を踏まえたESDカレンダーの試作をしたが，このESDカレンダーに基付いた実践を通して，検証・改善・見直しをしていく。
- 教科の授業をESDの視点で拡張した単元学習プログラムの充実を図る。